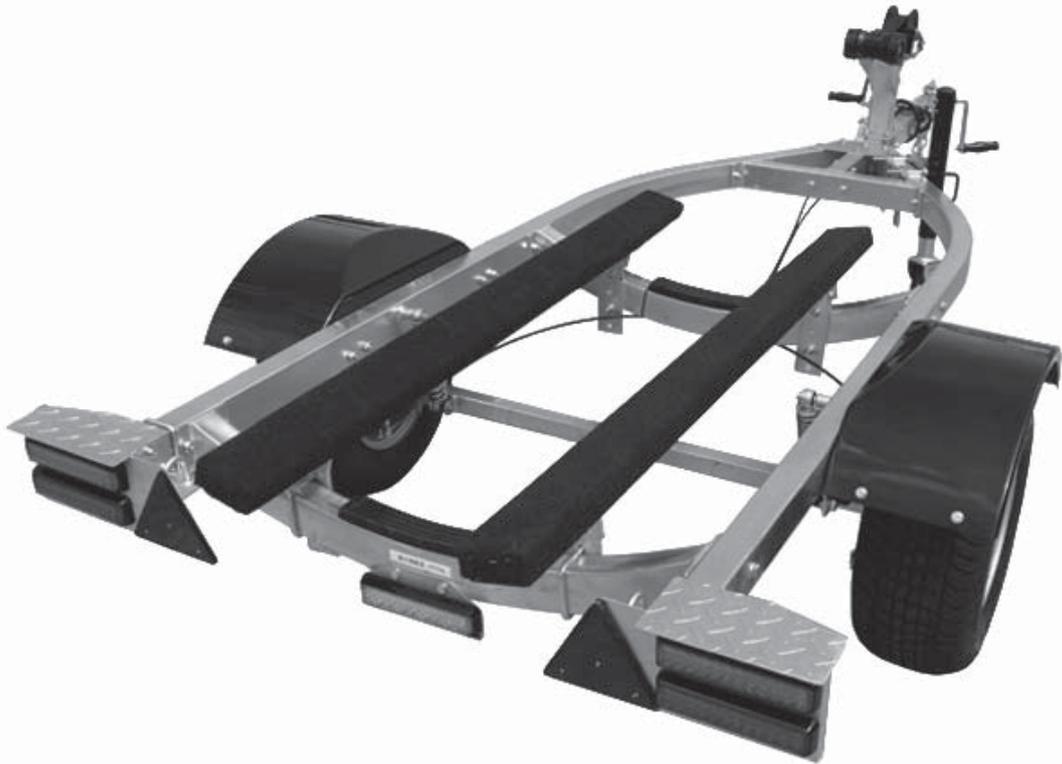


トレーラー組立補足資料

組立例：YST-34



目次

1. 中身の確認
2. フレーム製作
3. 足回り
4. 灯火類
5. ブレーキ調整
6. ウッドレーン
7. バウスタンド
8. コネクター
9. ウィンチ
10. ジャッキ
11. 完成

<メモ>

1. 準備



組立に必要な道具を準備します。

- ① ドラムコード (あると便利です)
- ② ワイヤー (針金等で代用可)
- ③ トルクレンチ
- ④ ペンチ、ドライバー、やすり等
- ⑤ レンチ類
- ⑥ インパクトドライバー
- ⑦ 圧着ペンチ、圧着端子 (ギボシ、クワガタ)



YST-34 のキットでは、

- ① メインフレーム
- ② アタマフレーム
- ③ ウッドレーン&横フレーム&車軸
- ④ フェンダー&灯火類
- ⑤ ネジ箱
- ⑥ タイヤ

がセット内容です。

*注文内容や状況により、箱の数は変わります。

ネジ箱の中身と灯火類の中身を確認します。
この時、ボルト類を仕分けしておくことで作業が楽になります。



【M10x90 8.8】のボルトは、
カプラーの部分で使うボルトです。

【M10x100】と似ているので
間違えないように

2. フレーム組立



■フレームの組立

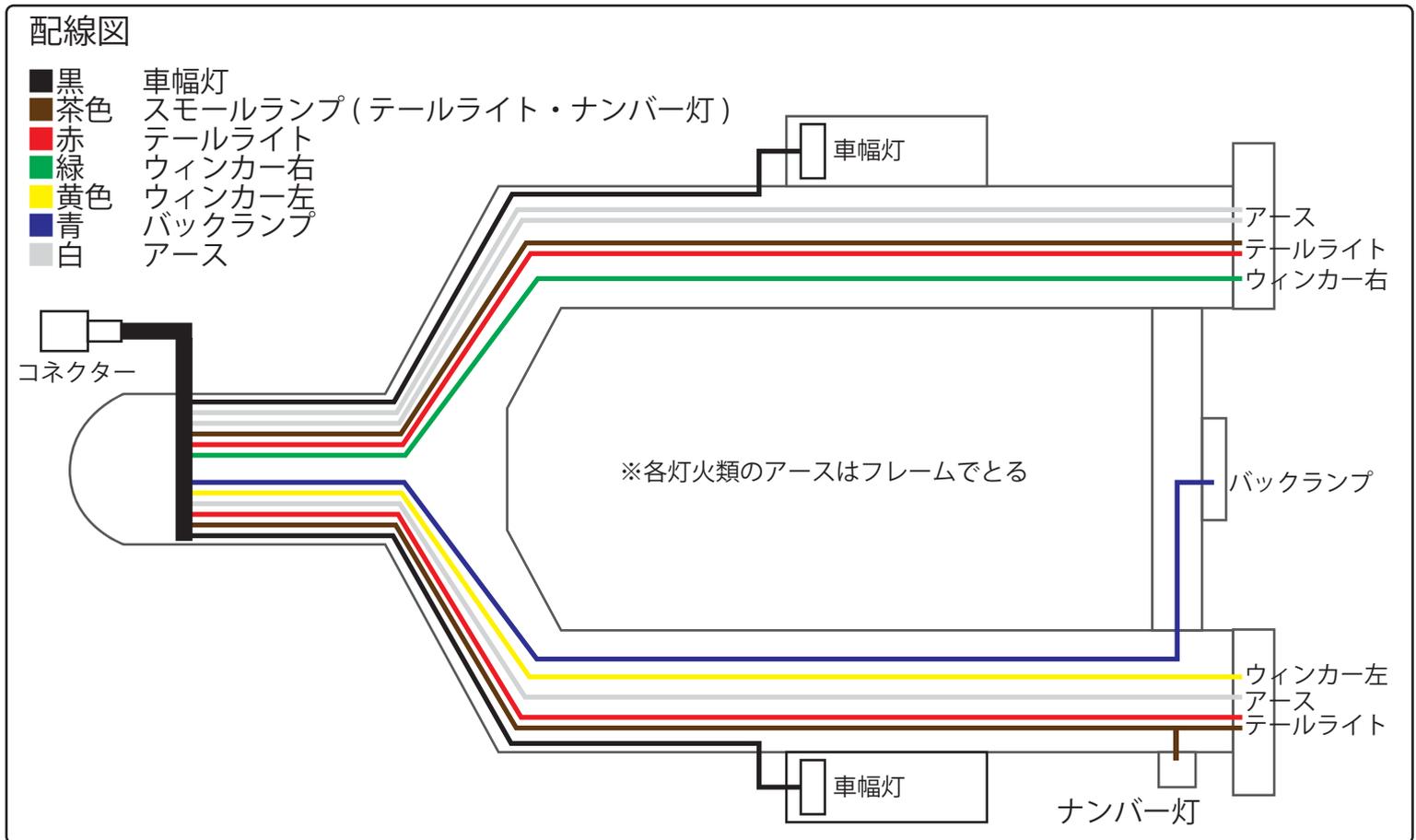
フレームを2本並べます。

ウチではお酒の空き箱を台にしています。

ボルト穴にバリがある場合はヤスリ等で処理して下さい。



次にフレームに配線を通していきます。



配線を色別に分け、テープでまとめます。その後、片方ずつワイヤーに付けてフレームに通していきます。
 後ろから見て左側：【青、黄、白、赤、茶、黒】 右側：【黒、白、白、茶、赤、緑】

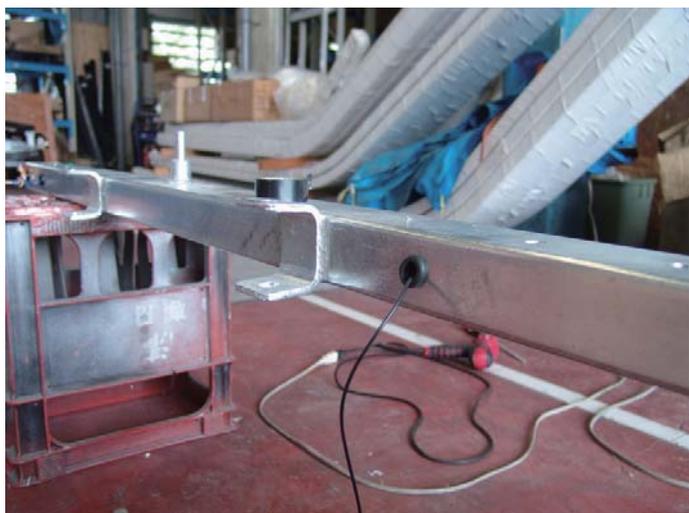


2. フレームの組立

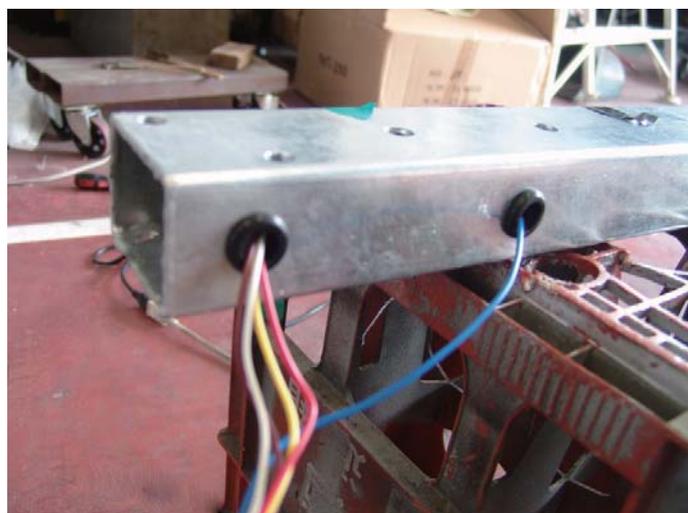
後ろから見て左側のフレームへ配線を付けたワイヤーを通していきます。
一番後ろまで通してしまいましょう。



黒の配線は車幅灯に行くため、前から3番目の配線用の穴へ。
黒の配線は余るので60～70cm切っておき、バックランプ用にとっておきます。

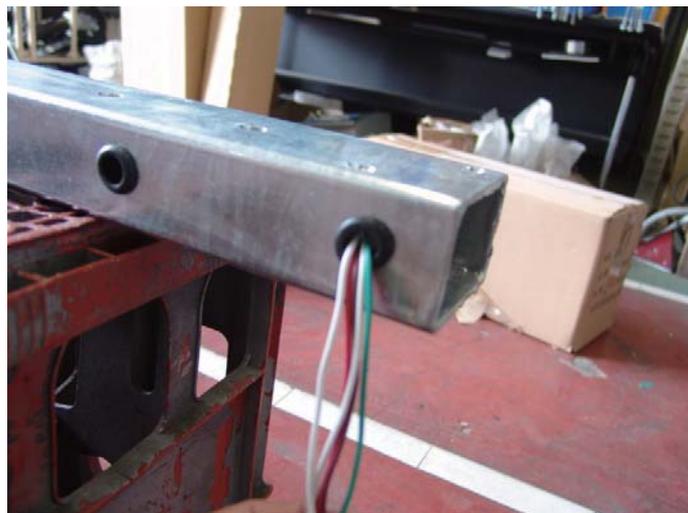


青の配線は、後ろから2番目の配線用の穴へ通し、
残りの配線は一番後ろの穴へ通します。



2. フレームの組立

右側のフレームにも同じように通していきます。
右側は黒の配線(車幅灯)以外すべて一番後ろの穴へ入れます。



一番後ろの横フレームに先ほど切った黒い配線を通しておきます。



フレームの向きを変え、横フレームを仮止めしていきます。

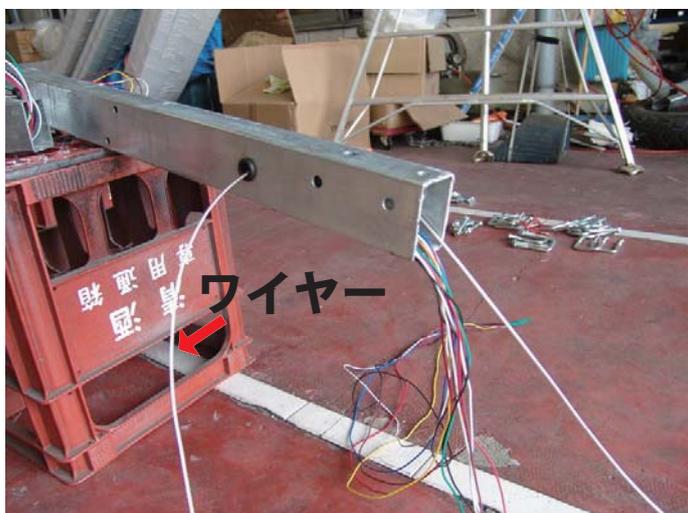
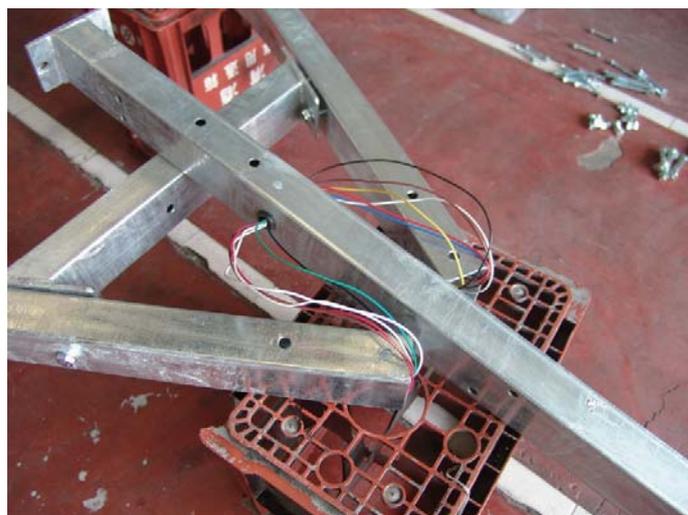


2. フレームの組立

すべての横フレームを仮止めします。



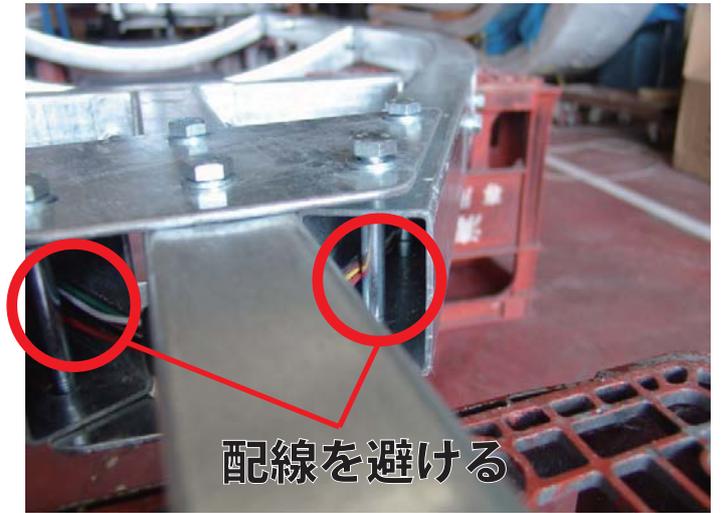
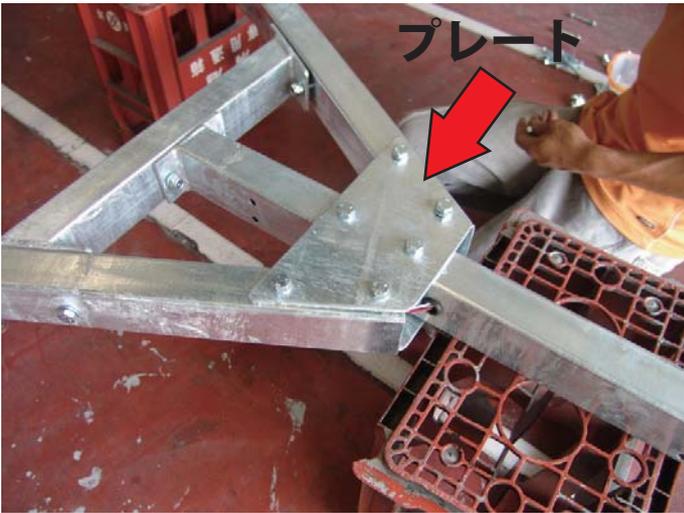
アタマフレームは仮止めする前に配線を通します。
アタマフレームは車体番号が上面になるよう取り付け、両サイドの配線穴から配線を通し、一度アタマフレームの先端へすべての配線を出します。
出てきたすべての配線をひとまとめにして、一番前の配線穴へまとめた配線を通します。
この配線はトレーラー側コネクタへ繋がります。



2. フレームの組立



配線を通したら仮止めします。
プレートをつける際は、
配線を引っ掛けないように気をつけます。



ここまできたら、仮止めしていたボルトを完全に締め込みます。



3. 足回り

■リーフスプリングの取り付け

ボルトの穴は上向きにしておいたほうが割りピンを割るときに楽になります。



反対側も同じように取付けます。

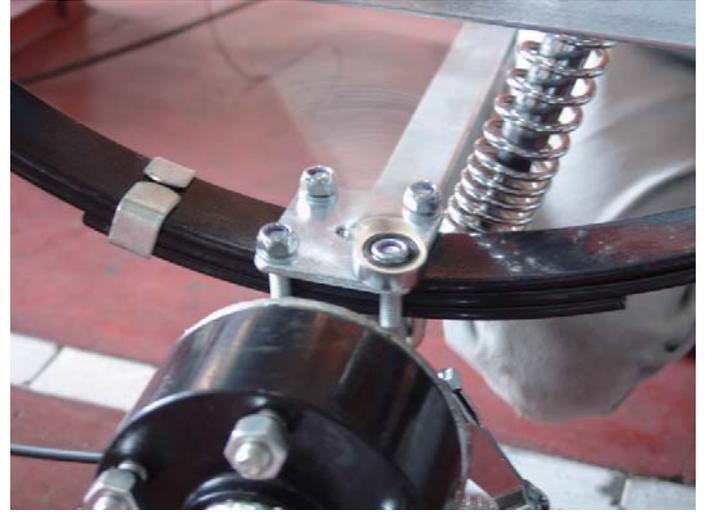
■ホーシングの取り付け

一人の場合は左右のプレートに片方(外側)ずつUボルトを付けておきます。



3. 足回り

両方のプレートをリーフスプリングに乗せて、そのままリボルトを締めていきます。
外れない程度に締め付けたら、本締めの前にショックを取り付けます。



■ショックの取り付け

バネの間隔が狭いほうが下になります。

割りピンを通す穴が狭い場合は、ドリルなどで少し広げて下さい。

ショックが付いたら、先ほどのホーシングのボルトを本締めして下さい。

※締め付け過ぎるとプレートがゆがむので注意



割りピンを忘れずに

■ロックアームユニットの取り付け

曲がり内側になるように取り付けます。



ロックアームユニット



3. 足回り

■ブレーキワイヤーの取り付け

ブレーキワイヤーの部品をばらして、ホーシングの穴とロックアームユニットに通します。ホーシングの穴はナットで挟み、次にバネ、ピン、ブレーキ調整用ナットの順番になります。



■タイヤの取り付け

タイヤのボルトを締める時は対角線上に締めます。
締め付けはトルクレンチで 100N/M(約 10kg) で締め付けます。



4. 灯火類

■配線の端子の取り付け

端子はトレーラー側がメスになるようにつけていきます。

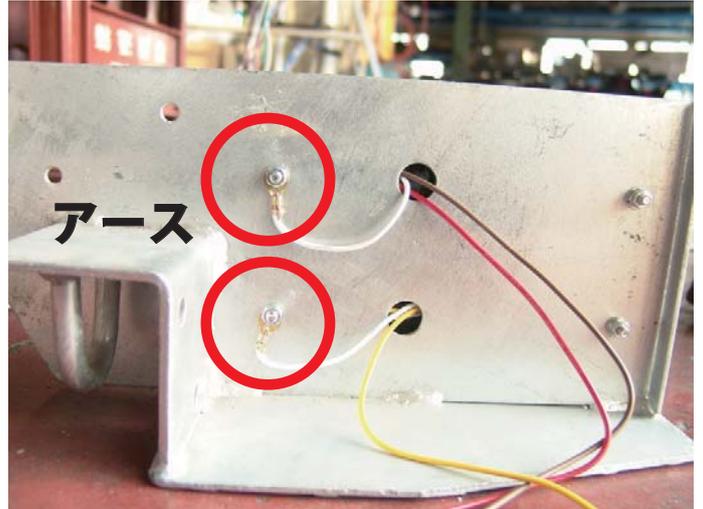
アース(白の配線)にはクワガタ端子を付けます。まずはテール側に出ている配線からやっていきます。



■ステップ付きテールライトステーの取り付け

ライトカバーを付けて、ライトの裏の配線を穴から出します。

アースはボルトから取り、他の配線は長さを調節する為まだ端子を付けないで下さい。

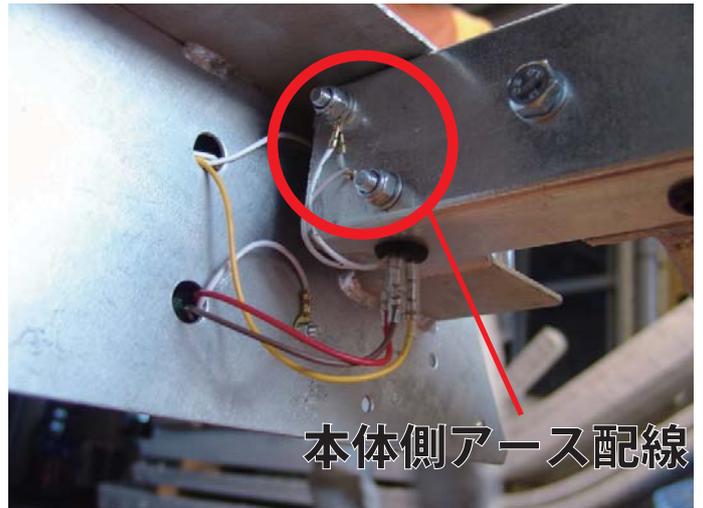
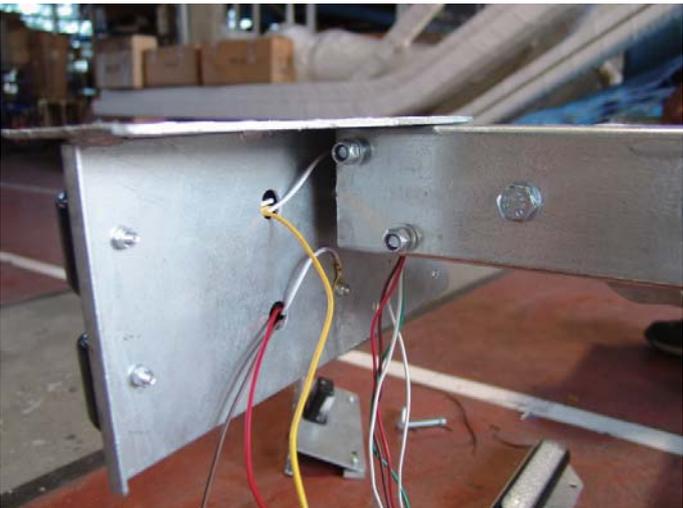


ステップ付きテールライトステーとフレームをボルトで止め、本体側の配線とくっつけていきます。

本体側からきているアース用配線もこの時ボルトで取ります。

灯火から出ている配線を任意の長さで切断し、オス端子を付け取り付けます。

反対側も同じように取り付けます。

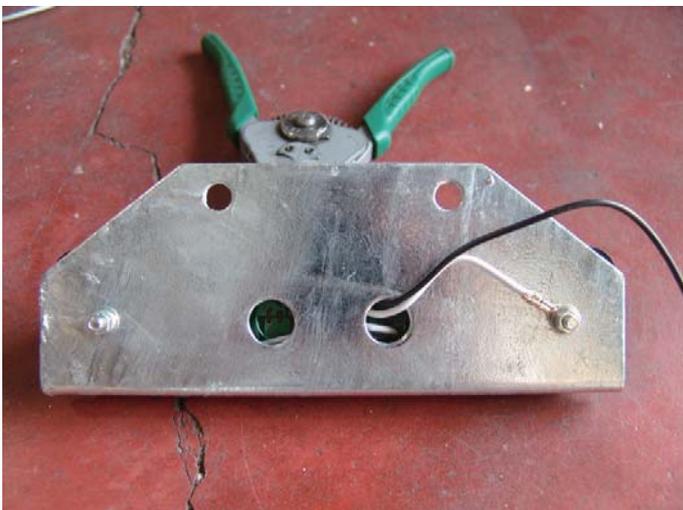


三角リフクターも取り付けます。



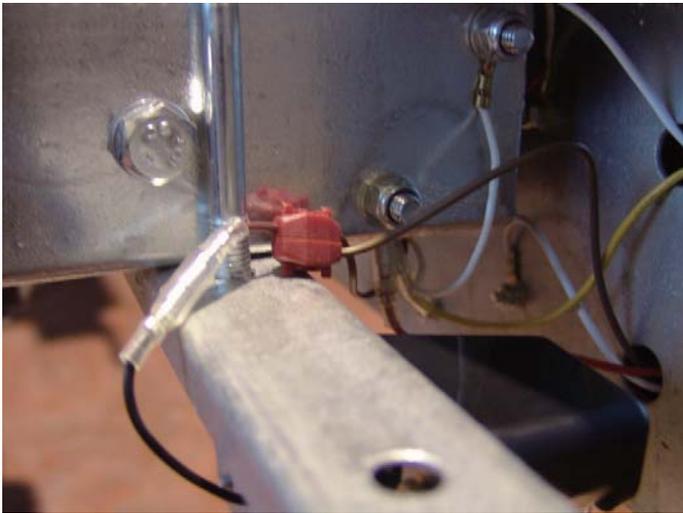
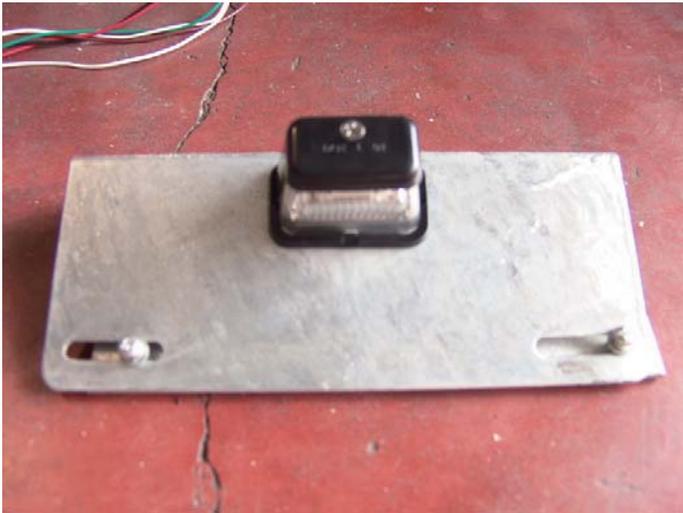
■バックライトの取り付け

配線に端子を付け、
バックライト取り付けステーにバックライトを付けます。



4. 灯火類

■ナンバー灯の取り付け
アースはボルトで取ります。



本体へUボルトで取付け、
配線はスモールランプ(茶色)から分配してきます。

■フェンダーの取り付け
フェンダーステーを付け(向きに注意)フェンダーを取付けます。
ボルトを締めすぎるとフェンダーが割れる可能性があるため気を付けて作業して下さい。



4. 灯火類

車幅灯をマイナスドライバーで開け、フェンダーに仮置きします。

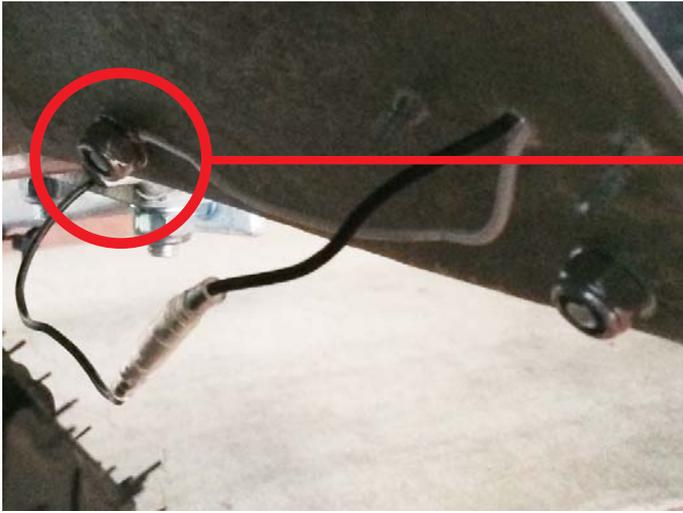


マジックなどで穴あけ位置に印を付けて、穴をあけます。
真ん中の印には配線が通る大きさの穴、左右の印はネジより細い穴をあけていきます。



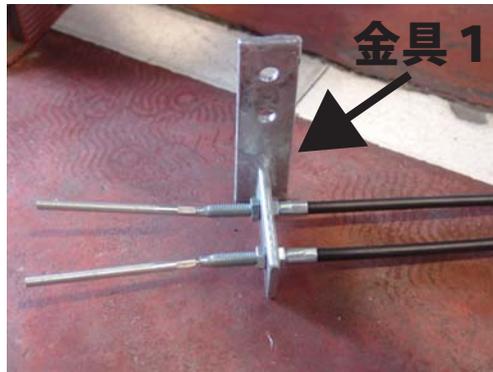
4. 灯火類

車幅灯の配線は白(アース)にクワガタ端子を付けボルトでアースを取ります。
ボルトとワッシャーの間にクワガタ端子を挟むようにします。

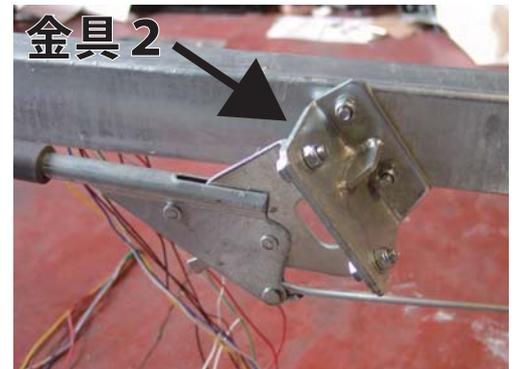


5. ブレーキ調整

■サイドブレーキの取り付け
ブレーキワイヤーの先端に取付金具1を付け、本体に取り付めます。

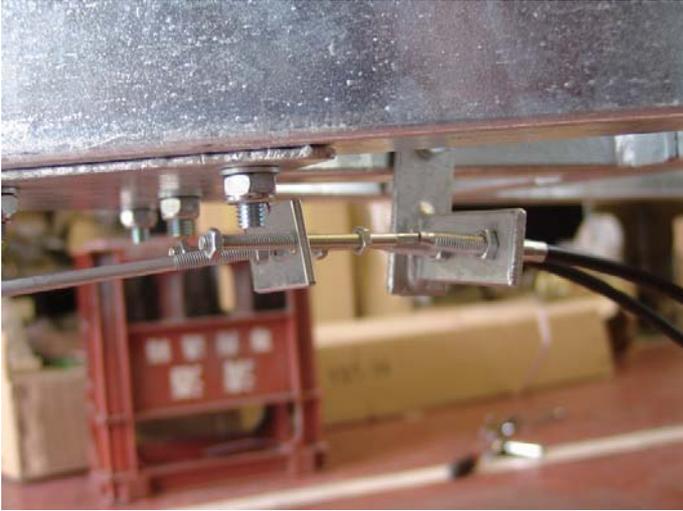


サイドブレーキを車体に取り付ける際に配線を巻き込まないように気をつけましょう。



5. ブレーキ調整

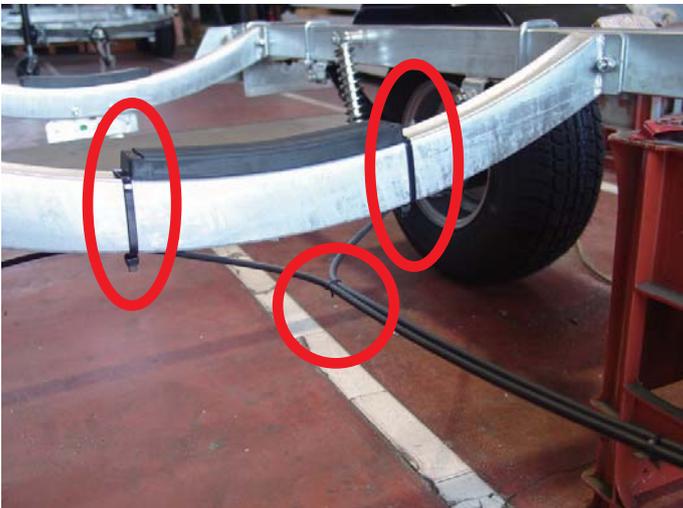
連結ロッドとブレーキワイヤーを取り付けます。



ブレーキの調整をします。
サイドブレーキをかけていない時にはブレーキは効かず、
サイドブレーキを引いた時に車体が動かなければ大丈夫です。



ブレーキワイヤーを結束バンド等でまとめて、引きずらないようにします。



6. ウッドレーン

■ウッドレーンを取り付け

車体からはみ出ると車検に通らなくなるので、向きに注意！



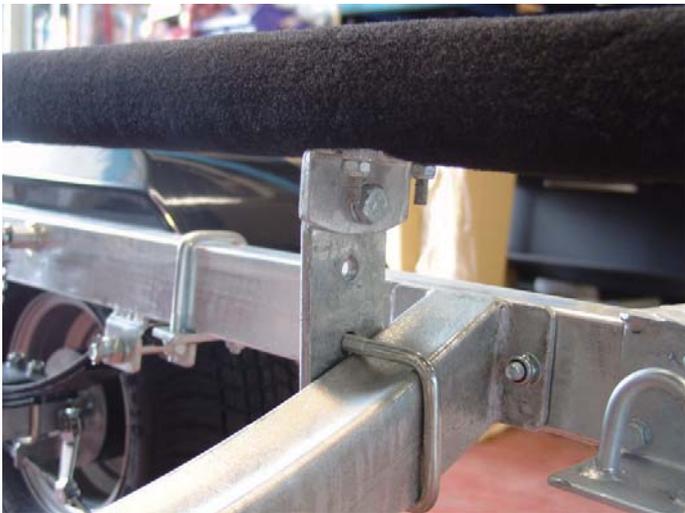
取り付け用のステーを仮止めします。

前の横フレームと後ろの横フレームに付けますが、ステーの方向を間違えないように。



ウッドレーンとステーをボルトで付け、幅や角度などを調整します。

場所が決まったら、ボルトを本締めして終わりです。



7. バウスタンド

■ バウスタンドの取り付け

Uボルトで車体に取り付けます。車種により取り付け位置は異なりますので注意して下さい。
位置や高さは乗せるものに合わせて調整します。



※車検の時はローラーがスタンドより高くないように注意して下さい。

8. コネクター

■コネクター取り付け

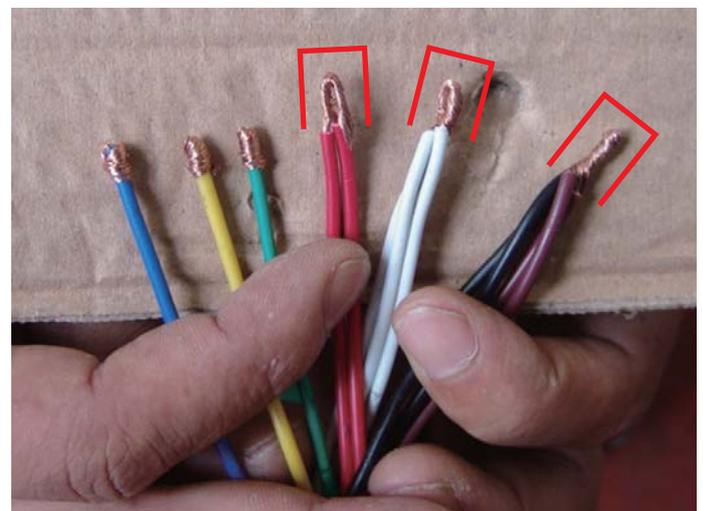
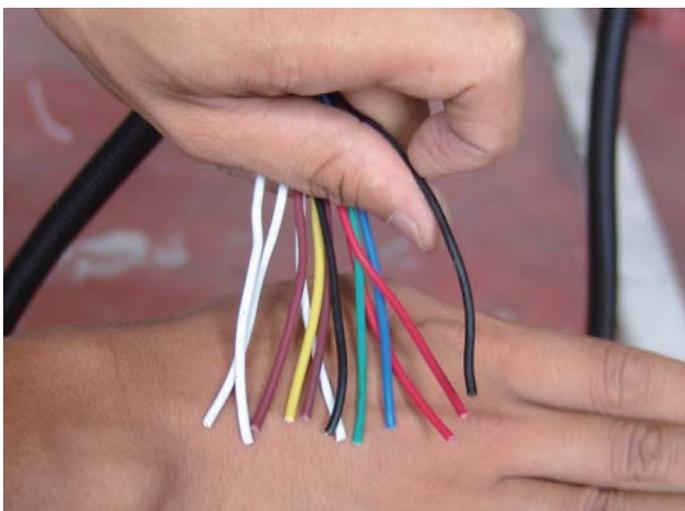
アタマフレームから出ている配線にジャバラホースを巻いていきます。
アタマフレームの中に少しジャバラホースを入れるようにしましょう。



コネクターをばらして、コネクターに配線を通します。
通す際に【の】を描くようする(画像参照)

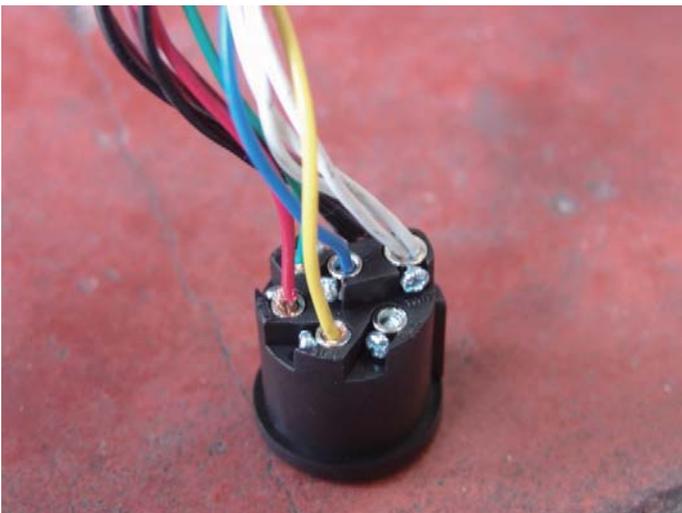
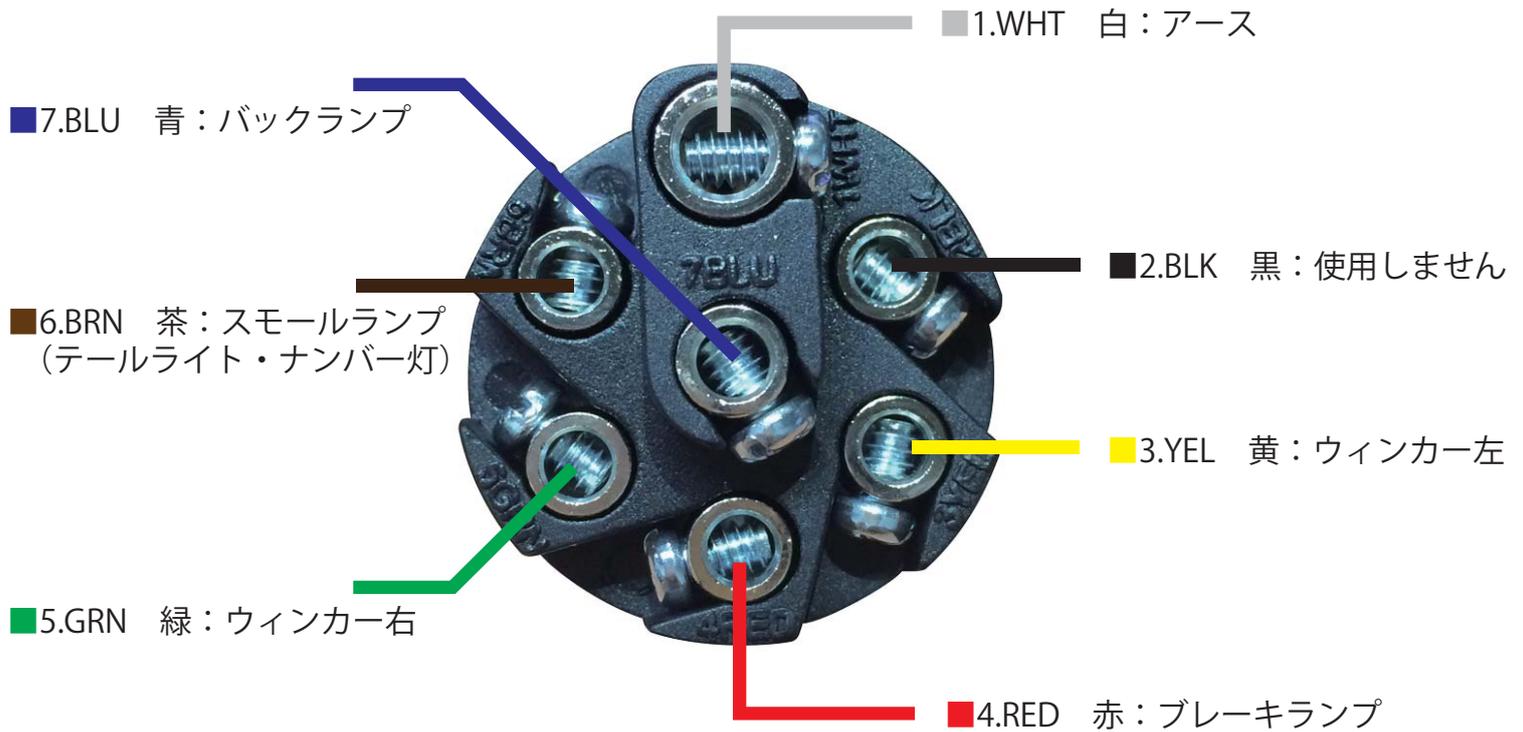


配線の先端を同じ長さにカットして、ネジります。
【赤】【白】【茶・黒】はひとまとめにします。



8. コネクター

ネジを緩めて指定の場所へ差し込み、ネジを締めます。



■カプラーの調整

ヒッチボール(2インチ)を付けて、キツすぎず、緩すぎずのところで調整します。カプラー裏のボルトの締め具合で調整できます。少しカタカタなるくらいがベストです！

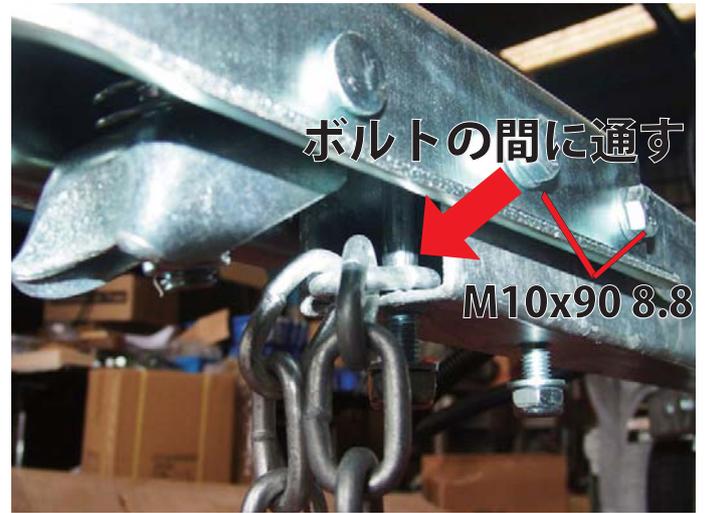
8. コネクター

■カプラーの取り付け

セーフティーチェーンを半分にし、カプラーの縦に入るボルトの間に入れます。

カプラーはボルト4本で止めますが、カプラーの横に入るボルトは【M10x90 8.8】を使用します。

※車種により、カプラーとフレームの間にスペーサーを挟むタイプもあります。

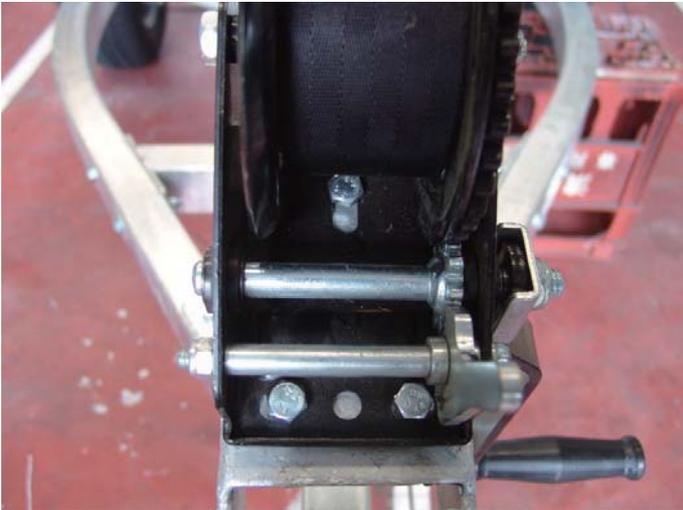


9. ウィンチ

■ウィンチの取り付け

キットと一緒にご購入の場合は取付用のボルトが付いています。

3箇所をボルト止めして終わりです。



※車検時にウィンチを付けていくと減トン(最大積載量が減る)されることがあります。
外していくことをオススメします。

10. ジャッキ

■ジャッキの取り付け

取り付け時はフレームと下のボルトがくっつくように付けましょう。

また、ジャッキの取付用のステーは締めすぎるとジャッキの動きが悪くなるので、注意して下さい。ステーが曲がるくらい閉めている場合は締めすぎです。



11. 完成

■反射板の取り付け

丸型反射板を指定の場所へ貼り付けます。

- ・フェンダー車幅灯上に丸い反射板（白）
- ・側面反射板（橙）があること（軽ナンバーは除く）

側面反射板（橙）の取り付け位置

全長が6メートル未満のトレーラーの場合

側面から見て、全体を3分割して、前から1/3の場所へ1枚、後から1/3の場所へ1枚（左右で計4枚）

全長6メートル以上のトレーラーの場合

前から3メートル以内に1枚

後から1メートル以内に1枚

全体を3分割した真ん中に1枚

尚且つ真ん中の1枚から前後の反射板までそれぞれ3メートル以内（左右で計6枚）



※反対側の同じ位置にも貼り付けます。



■最大積載量の貼付け

後方から見やすい場所に最大積載量シールを貼ります。

ボルトの締め忘れがないか、灯火類が正常に点くか、ブレーキが正常に効くかを再度確認して完成です。

■検査時チェックポイント■

■ボルト・ナットに緩みがないこと

■自動車スモールランプ点灯時→トレーラーテール尾灯・車幅灯・ナンバー灯が点灯すること

■その他、ブレーキランプ・バックランプ・ウィンカー・ハザードが牽引自動車と連動すること

■フェンダー車幅灯上に丸い反射板（白）があること

■側面反射板（橙）があること（軽ナンバーは除く）

全長が6メートル未満のトレーラーの場合

側面から見て全体を3分割して、前から1/3の場所へ1枚、後から1/3の場所へ1枚（左右で計4枚）

全長6メートル以上のトレーラーの場合

前から3メートル以内に1枚

後から1メートル以内に1枚

全体を3分割した真ん中に1枚

尚且つ真中の1枚から前後の反射板までそれぞれ3メートル以内（左右で計6枚）

■サイドブレーキの効き具合

■最大積載量シール添付（後方から見やすい場所）

完成写真

